


金融界のオピニオン専門情報誌

週刊金融財政事情

Financial Affairs

媒体資料

広告料金表

発行元： 一般社団法人 金融財政事情研究会

お問合せ・お申込み先：広告マーケティング部

〒160-8519 東京都新宿区南元町 19
TEL:03-3355-1618 / FAX:03-5269-4744
<https://www.kinzai.jp>

週刊金融財政事情

Financial Affairs

本誌は1950年に創刊され、その後の金融・財政の歴史とともに歩みを進めてきました。通巻3600号超にわたる刊行を続けることで、金融界のオピニオン誌としての地位を確立しています。

雑誌メディアの価値を測る一つに、より多くの人の目に触れるかどうかという要素があります。多数の人が手に取るということはコンテンツに魅力がある証拠であり、作り手はそれを目指して原稿の執筆・編集に当たっています。本誌の読者は「金融業界の関係者および金融の動向に関心を持つ方々」が中心ですが、その中でより多くの人の目に触れるよう、時宜にかなった誌面の在り方を考えています。

また、雑誌メディアの価値を測る別の尺度として、それを手に取った人が本当にその中身を読んでいるかも重要です。その点、本誌の読者は書かれている内容を真剣に読んでいます。なぜなら本誌は、金融機関の経営者、人事や企画部門のスタッフ、営業店の幹部といった組織の中で物事を判断し、意思決定の責任を負う方々が必要とするテーマを取り上げているからです。実際に、こうした方々が、仕事上の解決の手掛かりを求めて本誌を手にするのは極めて多いです。

一方、本誌は金融機関のみならず、財務省・金融庁・日本銀行をはじめとした関係当局や、金融に隣接する業種の企業にも幅広く読まれています。金融業界への理解を深めるに当たって、本誌こそが極めて有力な情報源だと評価されているからでしょう。

本誌には、金融機関の経営者や関係当局の幹部等、業界のキーパーソンが多数登場する点も、一般誌とは異なる大きな特徴です。こうした方々が誌面を飾ることで、読者からの支持がより高まる好循環は、創刊の頃から変わらぬ本誌の強みです。また、インターネットや新聞とは異なる時間軸で、読者が知りたい情報を深く掘り下げて発信していく誌面作りも本誌が貫くこだわりです。

本誌への広告掲載は、金融機関で意思決定する立場にある役職員、監督当局や業界団体の関係者等の読者層に対する認知度向上に寄与するはずです。本誌の読者が誌面で貴社の広告を目にした際、高い信頼感をもって受け止めることは間違いありません。

編集長 田中 弘道

— 2026年の特集記事（1～3月） —

特集Ⅰ 暗号資産 変革の時／特集Ⅱ 検証 令和バブル（2026年新年特大号）

サイバー対策 高度化への道程（2026年1月13日号）

東証 改革への歩み（2026年1月20日号）

2026年版 金融を読むキーワード（2026年1月27日号）

始動する地域金融力強化プラン（2026年2月3日号）

広がる監視委の責務（2026年2月10日号）

地銀の存在感高まる病院支援（2026年2月17日号）

進む銀行の異業種採用（2026年2月24日号）

震撼のトランプ劇場「第二幕」（2026年3月3日号）

円債投資に向く地域金融機関（2026年3月10日号）

ローカル・ゼブラ 育成への課題（2026年3月17日号）

今こそ防災ファイナンス（2026年3月24日号）

「高市1強」政権が掲げる新経済政策（2026年3月31日号）

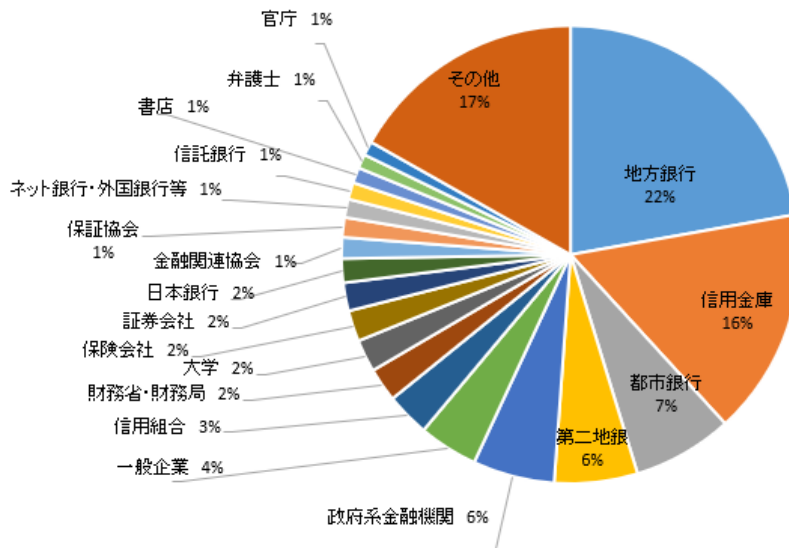
週刊金融財政事情

Financial Affairs

《業態別配布状況》

発行部数 紙 10,000部

『週刊金融財政事情』定期購読先分類



※四捨五入の関係で合計 100% になりません。

(2026年4月現在)

「週刊金融財政事情」は毎号50,000人以上に閲読されています！

編集部で実施したアンケート調査の結果、回覧で最も多い人数は3人(30.6%)、次いで4人(25.3%)、5人(24.7%)の順で、4人以上の回覧率は実に70%に達しています。

本誌の回覧の特徴としては、本部、本店、支店を問わず、決裁権を持つ役員・役席者に多く読まれていることです。

週刊金融財政事情

Financial Affairs

- ◆発行 行 一般社団法人 金融財政事情研究会
- ◆発行 日 毎週火曜日発行（年間 47 冊／2025 年度）
- ◆判 型 B 5 判
- ◆発行部数 45,000部（紙10,000、Web版35,000）

広告料金表

掲載面	ページ数	色	サイズ 天地×左右・ミリ	料金(円)10%税込
表4 (裏表紙)	1頁	4色	242×170	605,000
表2 (表紙裏側)	1頁	4色 1色	257×182	550,000 440,000
表3 (裏表紙内側)	1頁	4色 1色	257×182	440,000 330,000
前グラビア	1頁	4色	257×182	550,000
	2頁	4色	(257×(182+3))×2	1,100,000
	3頁	4色	1P=257×182 2P・3P=(257×(182+3))×2	1,650,000
	4頁	4色	1P=257×182 2P・3P=(257×(182+3))×2 4P=257×182	2,200,000
中グラビア	1頁	4色	257×182	396,000
	2頁	4色	(257×(182+3))×2	792,000
	3頁	4色	1P=257×182 2P・3P=(257×(182+3))×2	1,188,000
	4頁	4色	1P=257×182 2P・3P=(257×(182+3))×2 4P=257×182	1,584,000
見開き原稿の場合は、本誌が無線綴じのため、左右いずれの頁も見開き中心線から3ミリずつ合計6ミリの断裁のための余白をとってください。または、右頁・左頁をそれぞれに分けて257×182で作成してください。中央の断裁分を切り落として使用する場合は、257×370で作成してください。				
本文	1頁	1色	257×182	220,000
	ヨコ1/2		98×141	132,000
	タテ1/3		203×43	99,000
	ヨコ1/4		45.5×141	77,000

※入稿データ締切日… 発行日の約1ヶ月前

※表2・表3について、裁ち落としのデザインの場合、糊付け側(表2左側・表3右側)5ミリ程度以内には文字を入れないでください。

※前グラビア・中グラビアは、原則として2頁以上でお願いしております。

※前グラビアへの掲載は、1ヶ月に1社に限定してお受けしております。